

眼科

(スタッフ)

部長 : 山田 喜三郎
副部長 : 波津久 智伸
専攻医 : 石部 智也 (4月から)
視能訓練士 : 加藤 千鶴
 : 浦松 しのぶ

(診療実績)

一般外来は月・水・金の午前中で火・木が手術日です(全麻手術枠は火曜日の午前と第1・3・5木曜日の午前です)。午後は注射治療、レーザー治療、蛍光眼底造影検査、視野検査などを予約制で行っています。糖尿病黄斑浮腫や網膜静脈(動脈)閉塞症に対する抗 VEGF 薬硝子体注射治療を要する紹介が多く、午後の診察枠も超過している現状です。木曜日午前は小児眼科外来(予約制)を行っています。開業医の先生や他科からの急患の診療依頼にもできるだけ対応しています。

2021年の入院患者数と手術件数をそれぞれ表1、表2に示します。当院へご紹介いただく症例の多くは入院加療が必要な患者です。低年齢層の眼瞼手術や斜視手術、認知症患者や高齢患者の白内障手術などは全身麻酔での手術となります。2022年も新型コロナウイルス感染症による病床制限の影響で手術件数は減少してしまいました。全身麻酔手術症例は357例中71例で約20%を占めていました。白内障手術では266例中25例が90歳以上の患者でした。全身麻酔手術の待機期間の長期化は変わりませんが、局所麻酔手術も待機期間が3か月以上となってきています。網膜硝子体疾患で当院にて治療困難な症例は大分大学に依頼しています。

(今後の方向性)

2023年3月末に波津久智伸副部長が退職することとなり医師の補充もないことが決定したため、4月から石部智也医師との2人体制となります。当面は今まで以上に外来診療の待ち時間の延長が予測され患者には御迷惑をおかけすることになると思います。今後は円滑な外来診療を行っていくため、病状が落ち着いた患者に対する定期通院治療は開業医の先生方をご紹介させて頂きたいと思っております。ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

2人体制となりますが、医療の質を落とさないよう可能な限り対応させていただき、患者に少しでも

貢献できればと考えています。

(文責: 山田喜三郎)

表1 疾患別入院患者数 (単位: 人)

疾患	2021年	2022年
眼瞼・涙器疾患	28	26
結膜疾患	6	6
角膜・強膜疾患	11	12
原田病	4	0
その他のぶどう膜炎	4	8
白内障	269	268
網膜動静脈閉塞症	6	2
黄斑円孔・黄斑前膜	12	9
その他の網膜硝子体疾患	19	26
緑内障	11	10
視神経疾患	6	4
斜視	7	5
眼窩疾患	2	2
その他	7	9
計	392	387

表2 入院患者疾患別手術件数 (単位: 件)

疾患	2021年	2022年
眼瞼・涙器疾患	35	25
結膜疾患	10	6
白内障	298	266
網膜硝子体疾患	25	31
緑内障	10	10
斜視	7	5
その他	3	14
計	388	357